

開店時企画展示 《まちへの声 = 想いのインスタレーション》

開店までのワーキンググループでのことば「お話聞く会」に参加してくださったみなさんのことばそして、井筒屋町造商店に足を運んでくれた来店者のことばをさらに手書きで追加してこのまちへの想いのつまったことばを井筒屋町造商店の空間の中に置いてみたものです。この企画は、武蔵野美術大学の荒川真樹さんと、その友人のデザイナー田子裕子さんの提案とアドバイスにより実現したものです。

1. 所沢こんなところになってほしい(所沢はこんなところだったなあ、所沢と私の関係も含めて)

A: 所沢といえば・・・

- ・ 織物の町、飛行機の町
- ・ 所沢のよさのひとつは地盤の強さ！
- ・ 所沢のマチ場は、いくつもの世紀が混在した“ごつた煮”的な魅力がある。



B: 昔の所沢は・・・

- ・ 今はビルになって取り壊されていたけど、ほとんどの家の裏には蔵があったんですよ
- ・ 蔵のある商店街が生き延びてくことを市で考えていただければ、こんなに廃退しなかったんじゃないかなと思います
- ・ マチ場は残るんです。たとえどんな形であるにしても残るんです。
- ・ マチ場には人の流れがあったんですよ
- ・ いつも縦横無尽に、織物の縦系と

横系のように人の動きがあったんです。

- ・ 今はすれ違うということがあまりない。車と渋滞だけが残ってしまいました。
- ・ 縦系と横系の動線をどういう風に創っていくかということが、これからのマチ場づくりの大きな課題だと思います。
- ・ 昭和 50 年代のマチ場には、いつも買い物客がいました。歩道にはいつも人が歩いていました。
- ・ その時分の商人は 365 日やすみなしでしたね
- ・ 所沢は羽子板の産地
- ・ 所沢の飛行場は日本初の飛行場！
- ・ 天気がいいと飛行場の土手は満員。100 メートル飛び上がれば手ばたきしたそうです
- ・ 都心の方の遠足のコースになっていましたね
- ・ 青い手の男は女にもてる！
- ・ 裏町でまず袖を引っ張られるのは機屋さん。手を青く染めていれば染めているほど裏町では引っ張られました。
- ・ 三八の市ではよく遊びました
- ・ ちったあおっかあにいいものを着せてやれ！
- ・ 鯉、タニシの茹でたの、イナゴの干したの
- ・ どじょうは切ってもらって肝を飲んでいくんですよ。パロツと。そういうのをよく見てました
- ・ ちったあガキにうまいもんでもくわせてやれ！いい茶碗で！
- ・ 売る口上もうまかったですね。バナナの叩き売りみたいに
- ・ お正月に限り、4 日が初市なんで



す

- ・ 大井戸のおもいで
- ・ 一番痛切で今でもわすれないことは、水に困ったということです
- ・ 所沢の火事は泥で消せ！
- ・ 水汲みのおばあちゃんっていうのもいたんですよ
- ・ 一月に水天宮様にいくのが常でしたね
- ・ へいすけ饅頭 こし餡の単調な味なんですけれど、おいしかったんです
- ・ マチ場のはじまりは御幸町の坂稻荷
- ・ 昔はお店のおじさんに怒られた
- ・ 30 年ほど前まではぶつかるくらい人がたくさん歩いていたんだよ
- ・ 銀座通りといえば、たぐち、映画館(歌舞伎座)』

織物の町、飛行機の町

C: 所沢への想い

- ・ 私は本当に、所沢、大好きです
- ・ 好きだ、という気持ちが物事を変えていくんですね
- ・ 大衆さがいいんです。所沢も所沢飛白も。
- ・ 所沢飛白は庶民味方なんです。庶民の野良着。職人の気取りがない。それが所沢のマチの気軽さに繋がっているところなんです
- ・ 気取らなく、きさくな庶民の力が織り込められているんですね。所沢飛白には

- ・所沢のマチ場は織物で成り立っていたといっても過言ではないんです
- ・機織娘は花形でした
- ・織物ということがなくてはならない産物でしたね
- ・そのころは機織ができれば大きな顔してお嫁にいけませんでした

D:現在の所沢

- ・ダイエーから先に行ったこと無いな～
- ・銀座通りはマンション街だよ。さびしいネ。
- ・古い神社やお寺もあるんだ
- ・あれ、町の中に川が流れているよ
- ・西武のファンじゃなかったら、私ここに住まなかったし

- ・西武の町ところぎわ・・・？大変だ～
- ・張屋の張？いじっ張りの張？ずっときててうらやましい！（新所沢住民の気持ち）
- ・昔はプライドが邪魔になってできなかったのだから、今はやれなくなっているんだよ
- ・駅前や郊外に大型店舗が次々とできたことや、マチ場の商店主の代替わりなどでシャッターを下ろす店が相次ぎ、今やマチ場の商店街は崩壊寸前です。
- ・歴史的建物はマチ場の個性であり情報のひとつ
- ・旧町も楽しいじゃない
- ・映画館がないね

E:所沢への希望・提案

- ・浴衣がけと下駄履きで歩ける町にしたいね
- ・年寄り優しい町にしたいね
- ・思いを持った人が集まってくれば、きっと良い商店街になる

思いを持った人が
集まってくれば、
きっと良い
商店街になる。

- ・商店自体が元気にならないと！
- ・採算のことよりも地域の人がいきいきできるまちを
- ・ビル風がすごいのは何とかできないかなあ
- ・空いている見世蔵をギャラリー、喫茶店、あるいは焼き団子や手打ちうどんといった所沢の名物を食べさせる店、ライブハウスなどに利用することばできないだろうか。
- ・所沢のマチ場も、空いた見世蔵を活用すべき

2.井筒屋こんなところになってほしい(所沢の中での位置づけ)

- ・休めるところが、今はグリーンしかないのよねえ。御休みどころっていいじゃない！
- ・気軽に集えるサロン
- ・ここで話し込んでいこう
- ・茶飲み友達ができるかな
- ・一人でも多くの人にこの空間にかかわってほしい！
- ・この試みが試金石になって次につながっていくために、商店街をはじめとして多くの方々の支持を得ないとならないですね
- ・市民はオーナーでもあり、客でもある
- ・一緒にやってみたいと思える場にしたい！
- ・こういう場がどうやってできたのかも伝えたいなあ。
- ・建物が持っていた力を引き出す
- ・瓦版があったり・・・
- ・年中行事にあわせた小物を置くとか、床の間の掛け軸を変えとか、季節感を演出したい
- ・常に未完成で創りつづけている。じわーっといきましよう
- ・ここに来ればいろいろな情報が得られる
- ・まちの思い出、記憶、暮らしぶりなどをアーカイブスとして蓄積する



土蔵はこのなかで一番古い。
明治15年。
年号がはっきり書かれていて
わかっているものの中では
所沢で一番古いです。

- ・あらー、ここ残るの！！よかった
- ！あたしは所沢生まれだけどさ、いい建物どんどんなくなって、頭に来てたのよー
- ・着物着てた生活って、もう一度やってみたい、和室に座ってゆっくりお茶を飲む。火鉢・・・焼餅、うまいだろうな
- ・なにが行為の終点 - 発表して終わり - ではなくて、ここは始点 - 心の中に感じ考えたことが育っていく場所であってほしい！



まちの拠点 「井筒屋町造商店」 の誕生です！

練糸商「井筒屋」の店であったこの建物は、明治三十八年（一九〇五）に建築され、今年で築百年を迎えます。このたび持ち主の秋田さんのご協力のもと、所沢商工会議所が借り受け「まちの活性化の拠点」として生まれかわることとなりました。

みなさんからの公募で決まった新しい名前は「井筒屋町造商店（いづつやまちづくりしょうてん）」。

所沢中心市街地活性化拠点施設「井筒屋町造商店」は、まち場の商店街を元気にするために、誰もが気軽に立ち寄れまちを楽しくするところ、歴史を見つめ直し新しい文化を発信する場所、みんなの声が集まるまちの情報館になることを目指しています。

所沢に住むみなさんの「声＝思い」が重なり合い、新たな活力や文化を生み出す。そんな場面に成長していけばいいなと思っています。

まちで拾った「声＝思い」を井筒屋に置いてみました。

「もし、この井筒屋の空間を自由に使うことができるなら、こんな風に使ってみたい」「所沢、どうしたらもっともっと住みやすく楽しいまちになるんだろう？」いろいろな場面で拾ってきたそんな「声＝思い」をそのまま文字にして、井筒屋の空間に置いてみました。

あなたの声を一つと思いついたことでもいいですよー加えてみませんか。

「井筒屋町造商店」は皆さんの力で育てられることを待っています！まずは、あなたの「声＝思い」を思いつくままにこの井筒屋の空間に書きましょう。みなさんが日々見つめる所沢の姿を重ね合わせることで、未来の所沢の姿が見えてくるかもしれません。あなたの中にあるアイデアや記憶をこの「ふさだし」に書いて、生まれたてのほやほや、井筒屋の空間を埋めていきましょう。